



Newsletter

No.94

2024年12月1日

発行 レイバーネット日本

〒173-0036 東京都板橋区向原 2-22-17-108

http://www.labornetjp.org

labor-staff@labornetjp.org

電話 03-3530-8588 FAX 03-3530-8578

みんなでつくる！みんなで変える！ —レイバーフェスタ 2024 に集まろう—

ことは選挙の年でした。日本では自公が過半数割れし、アメリカではトランプが圧勝しました。民衆が変化を求めた背景には、深まる「生活苦・格差・貧困」がありました。30年に及んだ弱肉強食の「新自由主義政治」はもうゴメンだ！という思いが充満しています。いっぽう世界ではウクライナ戦争と中東の戦争が拡大しています。日本の軍拡も止まらない。いったいこれからどうなるのでしょうか？だからこそ、私たちは声を上げたい。「くらし・平和・人権・民主主義」を取り戻したい。レイバーフェスタはその大事な発信の場になるでしょう。

フェスタ 2024 では、ことし1月に公開され大きな話題になったドキュメンタリー『映画 ○月○日、区長になる女。』を上映します。

「一人街宣」など生んだ杉並区長選。市民一人ひとりが立ち上げれば変えることができる！という「希望」が見えてきます。新しい運動ス

タイルをつくり、勝利した杉並市民の成果をフェスタで共有したいと思います。

もうひとつのメインは、ダニーネフセタイさんのトークイベント「イスラエル軍元兵士が語る非戦論」です。ダニーさんの「非戦」の訴えは多くの日本人の心をとらえ、現在、全国講演行脚で引っ張りだこですが、レイバーフェスタに来ていただけることになりました。ガザの虐殺をとめ、中東そして世界に平和をつくるためにどうしたらいいのか、ダニーさんと一緒に考えてみましょう。

＜今年の会場は「ココネリ」（練馬駅前）＞

昨年は田町の港区産業振興センターでしたが、いろいろ問題があり、新しい会場を模索していました。やっと押さ

今後のレイバーネット活動案内

- レイバーネット TV210号 12月11日（水）
「映画と本で振りかえる2024年」（志真秀弘・永田浩三）
1月はお休みで2月から再開します。
- レイバーフェスタ 2024 12月25日（水）
ココネリホール（東京都練馬区）
＊チラシを参照してください。

えたのが「練馬駅前」のココネリホールです。今回は12月25日の平日開催となりますが、午後から夜までやりますので、ご都合をつけてご参加いただけると嬉しいです。

＜川柳・3分ビデオ 大募集中＞

あなたがつくるレイバーフェスタ。ことしも川柳・3分ビデオを大募集します。3分ビデオは「映像制作」の入口でもあります。「私の好きな店」（レイバーフェスタ2022）をつくった津田修一さんは、その後、取材をつづけ「週刊金曜日」の連載記事にまで繋がりました。さあ、あなたも3分ビデオに挑戦してみませんか？

●レイバーフェスタ 2024

12月25日（水）14.00～20.30

東京・ココネリホール

★プログラム

- 14.00 「映画 ○月○日、区長になる女。」
- 16.20 川柳大会（40分）講評：佐高信
- 17.00 音楽「詩と歌で奏でる抵抗のコレクション」
- 18.15 ダニーネフセタイ「イスラエル軍元兵士が語る非戦論」
- 19.05 短編「レイバーネットTV200号ダイジェスト」
3分ビデオ大会（20本）
- 20.30 終了
（詳細は同封のチラシを参照ください）



カンパのお礼／引き続きのお願い

前回のニュースレターで「7月時点での手持ち金額が30万円を割った。安定財政に戻すためにはあと50万円が必要」との緊急カンパの訴えをさせていただきました。それに応えて、大口カンパをはじめ会費・カンパの納入が続々と寄せられました。本当にありがとうございました。12月現在、手持ち90万円にまで持ち直しました。引き続きみなさんのご支援を宜しくお願いします。なお、宛名のところに会費納入状況が記載されています。同封の振替用紙をご利用ください。（事務局）

<レイバーネットTV 2024後期放送> 力のこもった濃い番組がつづく

レイバーネットTVの2024後期放送は、第204号(9/11)「大地震・大災害に備え、全原発を止めよ!〜後藤政志さん緊急アピール」、第205号(9/25)「都知事選で負けたのは『生活と労働』だった!〜石丸現象とマスコミの利権化」、第206号(10/9)「郵政職場に蔓延する『過労死・自死・パワハラ』」、第207号(10/22)「日東電工の韓国での横暴を許さない!〜韓国オプティカルハイテック労組の闘い」(写真)、第208号(10/30)「2024総選挙、そしてその後を考える」、第209号(11/13)「おかしいぞ!マイナ保険証強制〜政府の魂胆を解き明かす」と続きました。

それぞれに力のこもった濃い番組になりました。郵政の番組をみた郵政職員からレイバーネットに「労働相談」が寄せられるなど、具体的反応もありました。しかし、全体的に視聴数は多いとは言えず、そのへんは課題です。最近で多かったのは、第203号(6/26)「新一万円札『渋沢栄一』の虚像を剥ぐ」で約3000でした。

都知事選・総選挙、いまの政治状況を考える



今期の特徴は、都知事選・総選挙の結果と今の政治状況をどうみるかということでした。208号の「総選挙」特集のゲストは「ただか政治学者(山口大学名誉教授)」の瀬藤

厚(こうけつあつし)さん(写真右)。



番組でとくに取り上げたのは、裏金の影に隠れて争点にならなかった大問題「安保・軍拡」でした。社共をのぞくどの政党も軍拡・日米同盟強化の方向になっていて、今回の選挙で論議にもならず、結局「軍拡反対」の勢力を国会で増やすことができませんでした。軍拡があたりまえとされ、「非武装中立」「九条守れ」などの主張が脇に追いやられています、それはなぜなのか?

こうけつさんは、具体的事例をあげて「アメリカ軍産複合体の巨大権力が世界を動かしているし、日本を動かしている。そこをしっかりと押さえる必要がある」と語り、岸田政権の「今日のウクライナは明日の東アジア」というキャンペーンで日本社会の雰囲気はガラッと変わったと言います。そして「今日のウクライナは明日の東アジア」論のうそをわかりやすく暴きました。

来年も選挙の年です。今の危険な方向を止めるためにも、一緒に考えていきたいです。

各プロジェクト報告

●川柳班〜毎回新メンバー参加で盛り上がる

最近のレイバーネット川柳句会が賑やかです。毎回のように入新メンバーが参加するようになりました。10月31日の句会は、会場10人+オンライン4人の計14人。今回の自由句の最高得点句は「強制が任意任意とやってくる」(乱鬼龍)で7点を獲得しました。乱師匠が力を見せつけました。この句は、マイナ保険証批判にとどまらず、政府の一連のやり口を痛快に批判しています。「任意任意のリズムがいい」「同調圧力をうまく表現している」「ワクチンもそうだったし、昔の特攻兵も命令でなく志願という形をとった。自己責任にになってしまう国のやり方が恐ろしい」などのコメントが続きました。句会は、世代をこえた時事問題をディスカッションする場にもなっています。あなたも一度参加してみませんか。



●ブッククラブ〜読書会50回記念企画を開催

2017年に始まったブッククラブは、今年10月で50回を迎えました。そこで50回を記念して、特別企画「私の本との出会い」を開催します。皆さんがこれまで読んできた本の中から、これがホントの出会いですと言える一冊を紹介してください。参加者全員が、お互いに記憶に残る本を語り合う機会にしたいと思います。とりあえずひとり五分くらい語っていただくことを目処にしますが、当日の参加者数により時間は変わるかもしれません。この企画にに応じて、今回は下記の場所に集まることにしました。久方ぶりのリアル会合です。zoomも併用します。今回は時間の関係で、参加者数をできるだけ把握したいので、参加希望の方は、開会前日までに「〇〇です。読書会に参加します」と書いて、メールでお知らせください。→magg01231@nifty.ne.jp ●日程 2025年1月11日(土)午後2時〜4時 ●場所 郵政共同センター

季刊『フラタニティ』36号

松原明の連載「歩き続けるレイバーネット第五回」(一部略)

郵政職場に蔓延する過労死・自死・パワハラ

九月十九日、「郵便局員過労死家族会」発足記者会見に参加した。郵便局でこれだけ人が死んでいるのか！ 会見の資料をみて、まず驚いた。二〇〇一年から二〇二四年の間に、会が把握している突然死・自死の記録が二五件も並んでいる。そのうち労災認定を受けたのは二件しかない。そんな異常な郵政の職場をなんとかしたいという思いで、この日「郵便局過労死家族とその仲間たち」(郵便局員過労死家族会)が正式に発足した。

この会見を知らせてくれたのは倉林浩さんで、かれはこの会の事務局長だった。倉林さんは元全通(全通信労働組合)の活動家(その後郵政ユニオン)で、昔から私はよく知っていた。全通(ぜんてい)は「権利の全通」と呼ばれ総評労働運動の中核だった。二〇一〇年一二月の「さいたま新都心郵便局過労自死事件」では遺族・小林明美さんに寄り添い、裁判を支え、勝利和解に導いた立役者だ。



したが、翌日に心不全で亡くなった」「五一歳の方は勤続二六年、出勤してこないのに家に行ったら、座ったまま亡くなっていた」。新東京郵便局は数千人が働くマンモス局で、翌日配達物などを種分けしている。拘束十一時間の重労働だ。「嫌なら辞めればいい、という声がある。しかし深夜手当は一・五倍つくので、生活のために辞めるに辞められなくなっている」。

何とかこの問題をもっと広げたいと思い、急ぎよ、十月九日のレイバーネットTVで番組化した。タイトルは「郵政職場に蔓延する過労死・自死・パワハラ」。小林明美さん、倉林浩さん、青龍美和子弁護士が出演し、職場の実態がリアルに語られた。そして、それをもたらした効率第一主義の「民営化」を問うた。「重いけれども深く心に響く放送でした。ありがとう」の感想が寄せられた。

私がこの問題で感じたことはこういうことだ。「民営化・規制緩和」の新自由主義政策はすでに三十年の歴史をもつが、そこで行われてきたことは「組合つぶし」だった。ものいう組合をつぶすことで、経営はフリーハンドで新自由主義政策を推進した。総評の大黒柱だった「全通」「国労」「日教組」はさまざまな攻撃を受けて、ほぼ壊滅状態となり、職場は経営の「上意下達」の専制支配の場となった。労働組合のチェック機能が失われたのだ。

倉林さんが番組でこんな話をした。「全通が強かったときは毎朝全通のニュースが職員に配布されていた。そして、なにか問題が起きればすぐにニュースに書いて問題にした。だから当局はひどいことは出来なかったし、全通を恐れていた」「また当時の職場は助け合いの精神にあふれていた」と。その「助け合い」の職場が「競争と監視」の職場に変貌していった。それが「過労死・自死・パワハラ」を生む温床となったのだ。(全文は『フラタニティ』でお読みください)

* 季刊『フラタニティ』36号(2024年12月)は770円、申込みはロゴス社まで。Tel03-5840-8525 Fax03-5840-8544



発足した会の共同代表は小林明美さんだった。当時は顔も名前を隠して引いていたが、いまは「顔出し」で堂々としていた。夫・小林孝司さんが過労自死に追いこまれたのは

「さいたま新都心郵便局」だった。同局は、完全民営化のモデル局で、経営効率と過重なノルマが押しつけられていた。年賀状七千枚やお歳暮販売のノルマがあり、達成できなければ叱責された。やむなく自分で購入する「自爆営業」もはびこった。そして些細なミスがあれば、朝礼で多くの職員に囲まれ、「お立ち台」でつるし上げられる。そんな光景が常態化していた。そんななかで孝司さんはうつ病を発症し、局内飛び降り自死に至った。

妻の明美さんは責任を回避しようとする会社の姿勢に納得がいかず、たたかう道を選んだ。そして倉林さんから郵政ユニオンと職場同僚の支援を受けて、「安全配慮義務違反」裁判で会社の責任を追及し、解決金・謝罪・労災認定という和解を勝ち取った。

私がとくに驚いたのは、現状の事態の深刻さである。今年に入ってから四件の死亡事例が確認されている。そのうち三件は「新東京郵便局」で起きたもので、「深夜勤」の非正規社員が持病はないのに突然死で亡くなっている。六一歳・五一歳・五一歳のベテランだった。新東京郵便局の労働組合、東京中部ユニオンのメンバーはこう説明した。

「六一歳の方は勤続十四年、仕事中に体調をこわし早退

新会員紹介

11月に中国留学生のカップルが加わりました。お二人は東京大学でハラスメント問題に直面しています。できるだけ応援していきたいです。(編集部)

●指導教員からハラスメント 趙亜男(ちょうあなん)

中国河北省から参りました留学生、趙亜男と申します。一橋大学修士課程を経て東京大学学際情報学府博士課程に入学し、現在博士課程四年に在学しております。専門は日本中世史で、特に戦国時代の茶の湯文化に興味を持っております。指導教員からハラスメントを受けたため、博士二年から東京大学ハラスメント相談所で相談を始めました。相談を開始した時点から想像以上の困難に遭遇し、その影響は今にも繋がっています。ハラスメント対応の改善を目的として、ハラスメント対応の問題を東京大学ハラスメント防止委員会ないし東京大学総長に報告しました。防止委員会委員長は、区別対応を認定しましたが、関連問題を解決する姿勢が見受けられないです。微力ながら、現状改善のために努力を続けております。

●ハラスメントを受けた妻を支えたい 呂飛(ろひ)

中国黒龍江省から参りました留学生、呂飛と申します。

東京農工大学修士課程を修了後、東京大学生命科学研究科の

大学院研究生課程に入学しました。その時、妻は東京大学でハラスメントを受けたのでうつ病にかかりました。精神不安定の状況があった以前は、全然気が付きませんでした。その後、妻は精神科に通いながら、東京大学にあるすべての相談室で相談してみました。しかし、相談すればするほどさらにストレスが溜まるようになり、精神障害と診断されました。彼女の世話をするため、私は東京大学を退学しました。

これまでの二年間、ハラスメント相談所や学際情報学府が作成した調査報告書・調査記録などのハラスメント対応の関連資料を開示請求した結果、部分開示が見つからなかったとのことでした。ハラスメント相談の有効性を向上するために、東京大学におけるハラスメント対応の実情と妻の経験を共有したいと思います。



DVD『Amazon 配達員 送料無料の裏で』完成しました

インターネット上のプラットフォームを介してモノやサービスを購入することは、私たちの生活の中で、あたり前のことになりました。レイバーネットの会員でさえ、AmazonやUberEatsを、まったく一度も利用したことない方は少ないと思います。利用者の多くはそこで働く人の実態を知ることなく、商品や食事を受けとっています。しかし、そこでは悲痛な声を上げる労働者がいます。

2年前の2022年11月、レイバーネットTV第176号の特集「ワンクリックで送料無料!? アマゾン配達員

の窮状」で、初めてAmazon配達員を取材しました。同年6月に労働組合を結成した横須賀市の配達員の方でした。その後、世界的なキャンペーン

「MakeAmazonPay」の日本実行委員会に私も参加し、コツコツと取材を続けてきました。映像には盛り込みませんでしたが、派遣社員として私も倉庫で働いてみました。

本作ではAmazon配達員の労働問題を軸とし、AIによる労務管理や気候危機への影響、パレスチナ人虐殺など、様々な課題を生み出しながら、暴利をむさぼる巨大IT企業の現状を伝えています。高校生・大学生等の教育現場用の映像作品として制作しましたが、レイバーネットの会員には胸に響く作品に仕上がったと自負しております。12月よりDVD及びストリーミング配信、上映会等でご覧いただけます。お問い合わせ、特定非営利活動法人アジア太平洋資料センター(PARC)までお願いいたします。

(土屋トカチ)



レイバーネット日本の会員になりませんか

会員になれば、自分でニュースやイベント、お知らせを提供できます。レイバーネット日本は組合や個人が全国にアピールできる絶好の場所です。

年会費 A会員 3,000円 B会員 5,000円
(AもBも違いはありません。余裕のある方はぜひBで)

現会員数 560名
ウェブアクセス 1日 6,000

郵便振替 00150-2-607244 レイバーネット日本
銀行口座 きらぼし銀行 小竹向原出張所
普通 5002960

入会申込用アドレス apply@labornet.jp.org
電話 03-3530-8588 ファクス 03-3530-8578